

「柏崎の水」

青海川 お弁の滝

【名前の由来】佐渡の娘お弁は柏崎の藤吉と恋に落ちた。藤吉が柏崎に帰ると、お弁は毎晩たらい舟に乗って藤吉に会いにくるようになった。恐ろしくなった藤吉は、ある夜、お弁が柏崎を目指す目印にしていた番神岬のあかりを消してしまう。翌朝、お弁のなきがらが青海川の海岸にうちあげられた。その場所にあった滝を「お弁の滝」と呼ぶようになった。

お弁のなきがらは手厚く埋葬され、その場所には松が植えられたという。そしてこの地では年一回「おべん祭り」が行われ、「その松の枝に左手で綿の糸を結び付けられれば良縁を得られる」ということで賑わったという。（「柏崎」）

お弁・藤吉の話は諸説あり「佐渡の娘が、船が難破して柏崎に流れついたところを番神堂の僧に助けられる。娘は佐渡に帰った後も僧が忘れられず、板切れに乗って泳いで海を渡り柏崎へ通う」とするものもある。また、この話に似た伝説が全国各地に伝わるが、それは行商人などによって同じ話が全国に伝えられたためと考えられる。「柏崎郷土史話」で著者の宮川嫩葉は、お弁・藤吉の話のものは琵琶湖が舞台の同様の伝説だと考察し、「琵琶湖を渡って対岸の男へ通うなら 盥 で十分であり無理がないのであるが、日本海の遠い荒海へ転用すると悲愴となる。」と述べている。



お弁の滝
(小竹コレクション
絵葉書より)



青海川 海 舟 (舟名 越北)



かつての青海川駅(上)と現在の青海川駅(下)
矢印で示した場所にお弁の滝がみえる

お弁・藤吉の話に世に広めたのは寿々木米若の「佐渡情話」である。「夢現にも恋人を、忘れかねてかある夜の事、波おだやかを幸いに、心のなかじゃ神念じ、たらいの船に身を乗せて、波に揺られて柏崎...」 佐渡おけさを取り入れて即興で作られたこの作品は、昭和6年にビクターからレコードが発売されると全国的なヒットになった。また、山田五十鈴・尾上菊太郎出演で日活により映画化され、これも好評を博した。ちなみに、「お弁・藤吉」では語呂が悪いとの理由で「お光・吾作」と名前が変更されたという。

昭和15年、お弁・藤吉の話を観光に利用しようと、柏崎観光協会によって与謝野晶子の歌碑建立が計画された。柏崎出身の歌人の紹介で協会理事が与謝野晶子邸を訪れ、お弁・藤吉の物語を本人に直接説明し作歌を依頼。そしてつくられた歌が与謝野晶子の筆跡そのままに刻まれ歌碑は完成したものの、戦争による混乱で計画は立ち消えになった。歌碑は戦後まで石材屋の作業場に放置されたが、昭和25年4月、番神町の有志の力により番神諏訪神社境内に建碑されることとなった。寿々木米若もゆかりの碑ということでここを訪れたとのことである。

参考にした本

「柏崎郷土史話」宮川嫩葉著(224 ミヤ) 「観光資料 柏崎の伝説」(388 K カン)「柏崎の先人たち」柏崎市編(282 K)

「柏崎のいしづみ」山田良平著(224 ヤマ)「日本芸能人名事典」(770.3 ニホ) 「柏崎」中村葉月・西巻三四郎編(224 ナカ)